

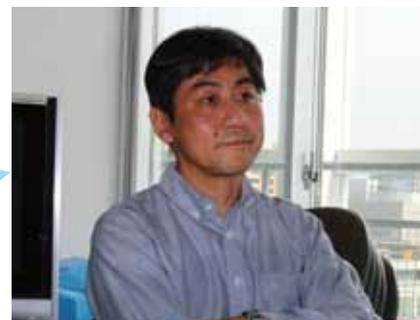
2014年9月号

今月のテーマは、
「南極昭和基地大型大気レーダー
(PANSY レーダー)」です。



今月は新展示「南極昭和基地大型大気レーダー
(PANSY レーダー)」を紹介するよ！
紹介してくれるのは、堤 雅基 (つつみ まさき) さんです。

昭和基地では南極最大の大型大気レーダー（愛称 PANSY レーダー）が、南極の大気を広い高度範囲で観測しています。極地研、東京大学、京都大学の研究者が中心となって進めている計画で、高度 1～500km の範囲の大気の動きを調べます。今後、詳しい観測から気候の精密な将来予測などに必要なデータが蓄積されてゆくのを楽しみです。上空の空気はとても薄いので大きな観測装置が必要で、直径約 300m の敷地内に大きさ 3m くらいのアンテナを 1000 本以上並べています。南極の厳しい気象にも耐える軽くて丈夫なアンテナや、アクセス困難な南極でできるだけ電気を使わない省エネ型送信機を何年もかけて開発しました。南極・北極科学館でその試作装置をご覧ください。



堤さんはどんなお仕事をしていますのですか？

主に、中波、短波、VHF 帯の電波を使った大気レーダー装置をいくつも運用して大気の動きを調べ、地球大気全体の大きな振る舞いを研究しています。PANSY レーダー計画では、特に技術面のまとめ役をしています。